



大学共同利用機関法人

人間文化研究機構

人文学研究の「評価」を考える いくつかの論点

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立歴史民俗博物館
後藤真

大前提 基礎データの不足

- 人文社会系の研究は計量的には測れないのか？
 - 半分はあたっている しかし、半分しかあたっていない
- 研究成果は文章で書かれているということは、自然科学でも、工学でも、人文社会科学でも同様
 - 一定の計量方法はある しかしデータがない？
 - Scopusでも当然一定のデータは存在するが…実態としてやはり不足が多い
- これまでのいくつかの検討で人文社会系の論点を整理してきた
 - 著書・著者数・言語・論文の引用速度など

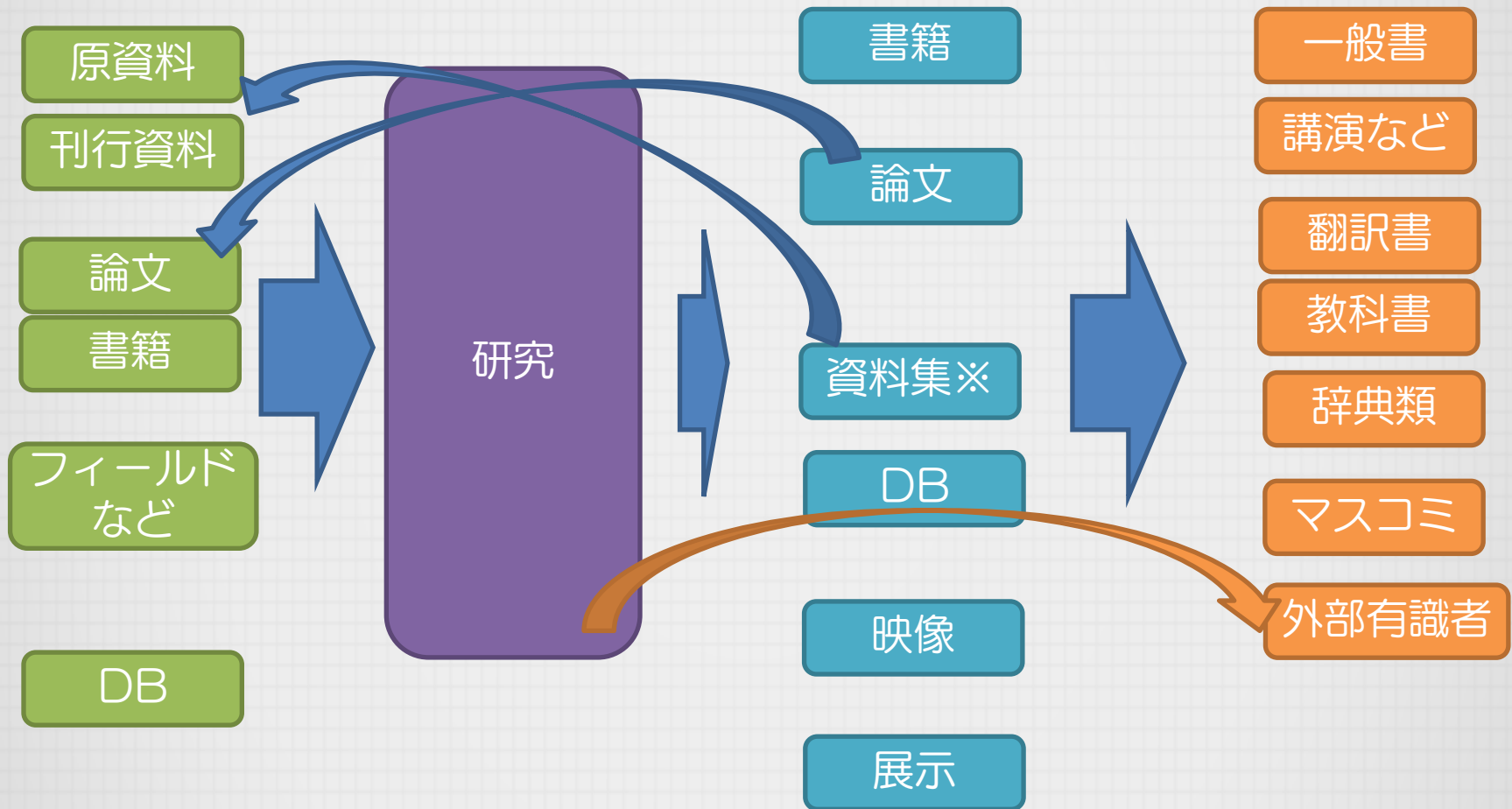


アウトプット・アウトカムの多様性

- 著書や展示、動画などをどのように考えるか
- アウトプットになりにくいインパクトをどのように考えるか（外部の有識者委員など）
- 共同利用機関として→基盤づくり
 - データベース構築・資料そのもの・図書の「所蔵」
 - 資料集作成・目録作成 etc.

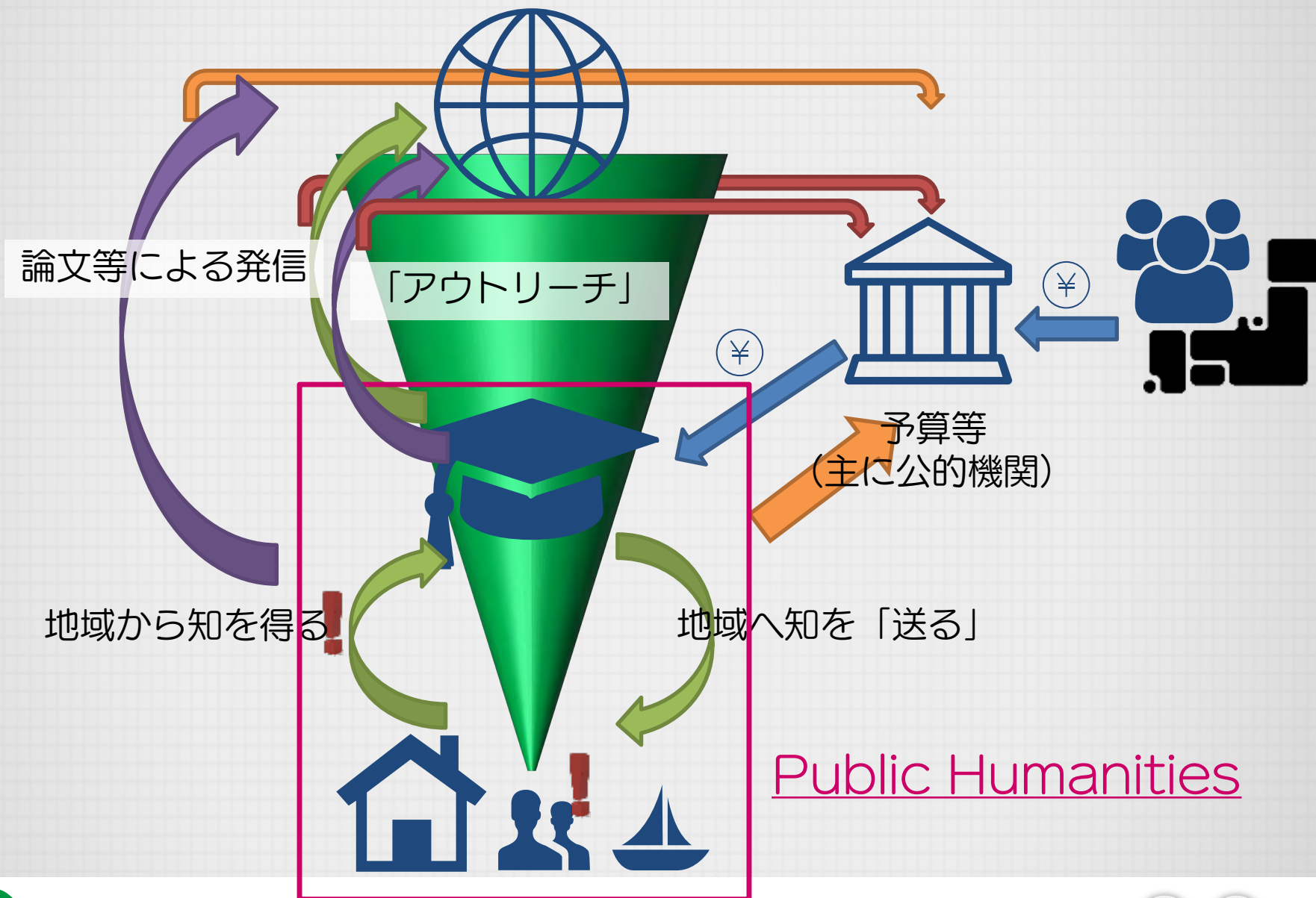


人文学の研究の関係



地域に根ざした人文系研究の構造

5



Public Humanitiesの視点と評価

- 地域の人々とともに作る「知」の形
 - 論文とは異なるアウトプットの理解
 - 研究プロセス自体が研究者とともに文化を作る「アウトカム」
 - 自然科学とは異なる視点
 - とりわけ、ミクロのアウトカムがマクロ（社会全体？コミュニティ？）のアウトカムへと波及する部分を見るのは難しい



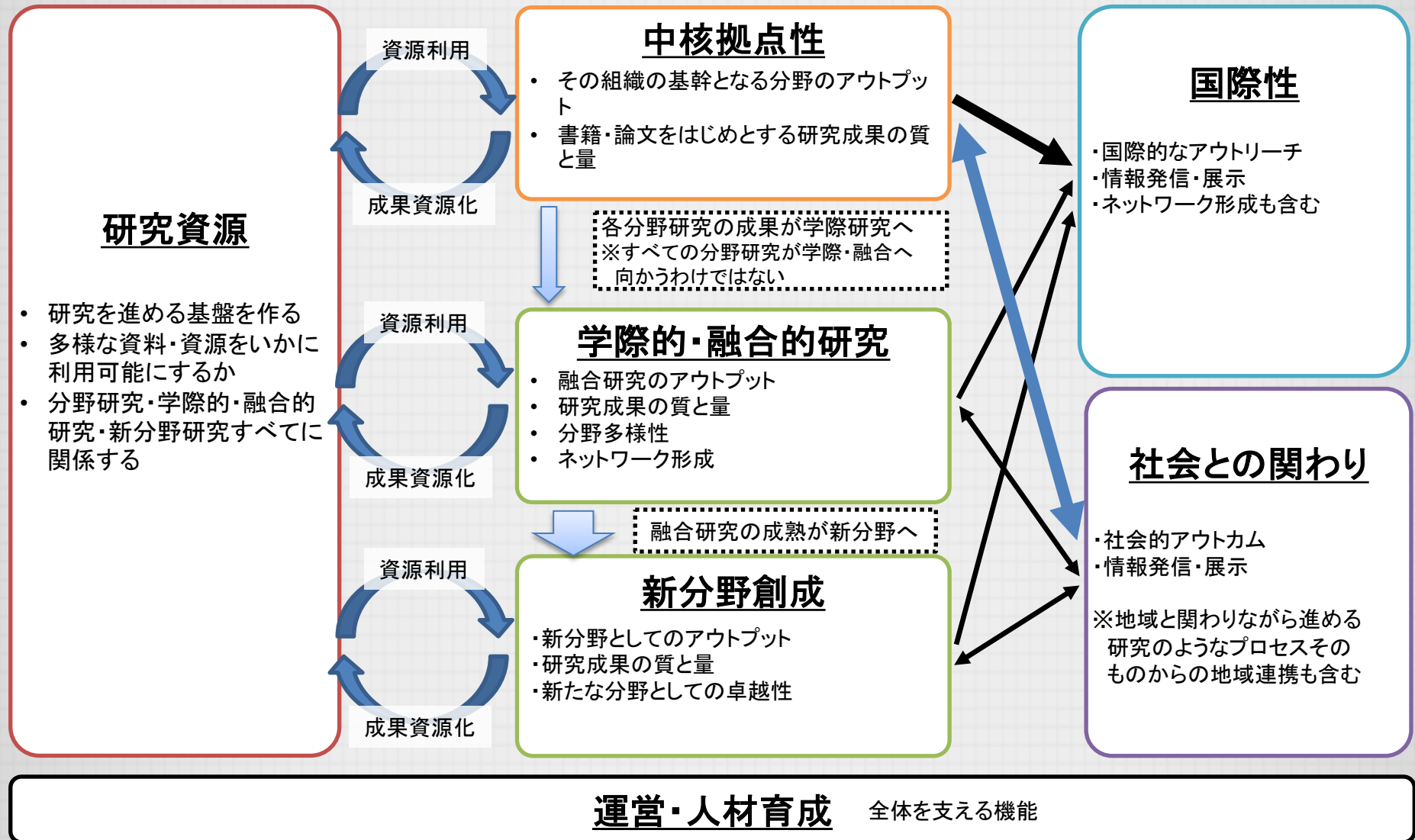
人間文化研究機構の取り組みとして

- 人文系研究評価システム検討委員会及び作業部会
 - いくつかの課題に対する提言と指標への考え方を提示
すべく議論を進める
- 学位授与機構による評価軸を基準としつつ、要素を分解し、「研究をはかる」ためにどのような理解をするべきかを考える
 - まずは人文機構自身の研究の評価軸の策定から始まり、次のステップを目指す



人文系研究評価と研究プロセスの関係イメージ(素案段階)

- ・人文系研究評価項目の各大項目と、研究プロセスとの関係を示したモデル
- ・青矢印は研究プロセスの移動を示し、黒い矢印はアウトカムを示す



機構内の議論

- 「社会とのかかわり」をどのようにとらえるか
 - 研究の「外」と見るか「うち」と見るか
 - 単にアウトリーチではない、研究のあり方を
 - （後藤の私見としてのコメント）分野ごとの研究手法の違いも
- 「中核的拠点性」（≡主に据える研究）の広さは
 - 国際性 学際性などは「主たる研究の一環」か
 - （後藤コメント）指標をAs isを理解するものとしてとらえるか、To beとしてとらえるか
 - 学問分野の（日本特有の？）あり方にもかかわるか



研究の内外における「境界」のあいまいさ

- 地域の人との対話は研究そのものでありアウトリーチ
- 国際的な研究は…
- 学際的な研究は…
- 分野ごとの差異が大きい、と同時に分野（における研究者の人数）が小さい
 - 自然科学や情報学における分野の差が小さいと言っているわけではなく、「人」に直接かかわる分野であるだけに差異がこれまでの「境界線」に触る例が多い？



人文学的指標の考え方（個人）

- 基本的考え方
 - （内容としても成果の出方としても）多様な研究の活動量
 - 論文、著書（専門書・一般書・資料集 etc.）、展示、映像
 - 社会的なインパクトへの評価
 - 専門的な知見をもととした人間の生活そのものへの還元
 - 国や自治体等の委員、新聞やWeb媒体等への成果執筆、新聞書評等を通じた専門書の還元など
- 近年の要請（学術分科会による「人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて（審議のまとめ）」）
 - 国際的な研究指標 国際共同研究やそれにもとづく成果
 - 学際的な研究指標 複数の研究機関の議論など



課題

- データをそろえるコスト
- この考え方の中で「質」を見るか？→基本的には別の議論とすべき
- 分野単位でどこまで細かくするか
- 社会的インパクトの考え方の再整理→議論を受けて



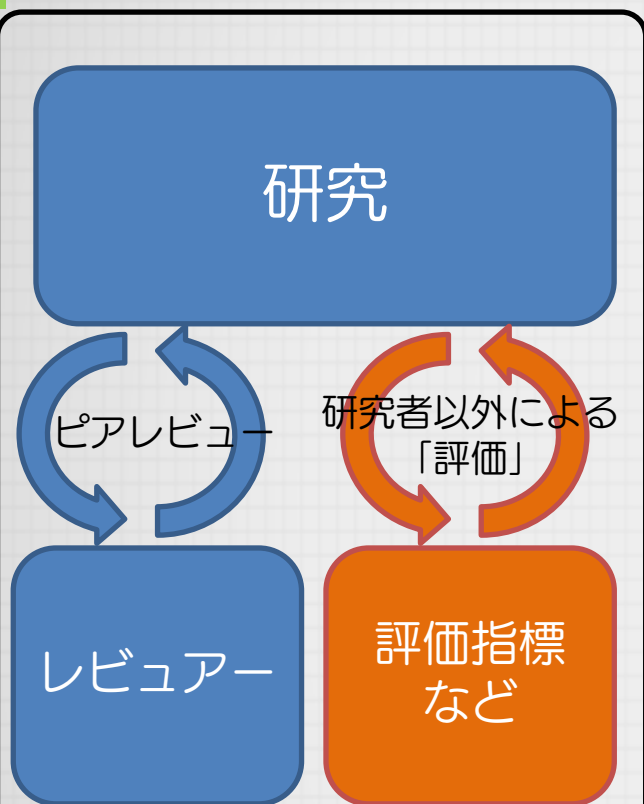
人文学が社会と接続するための「評価」を考える

- そもそも評価は「何のために」あるのか
- レビューの妥当性を問うメタレビューないしコミュニケーションの必要性
- 一方で、学問の側からは、研究の妥当性を説明するコミュニケーションツールの一つとして位置付ける必要も→社会との接点の一部として

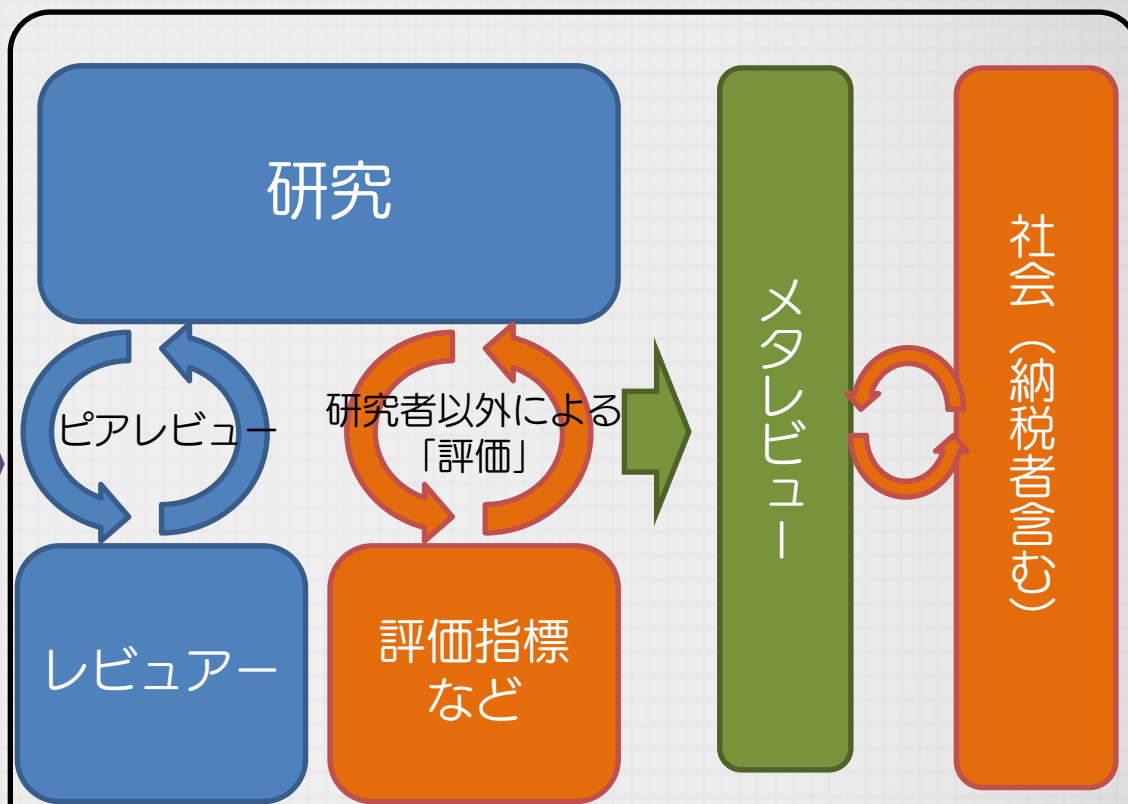


研究評価の状況に「一手間」を加える必要性も？

14



青い研究部分は非研究者からは理解しにくい
→理解しやすいオレンジの部分
が使われやすい状況に

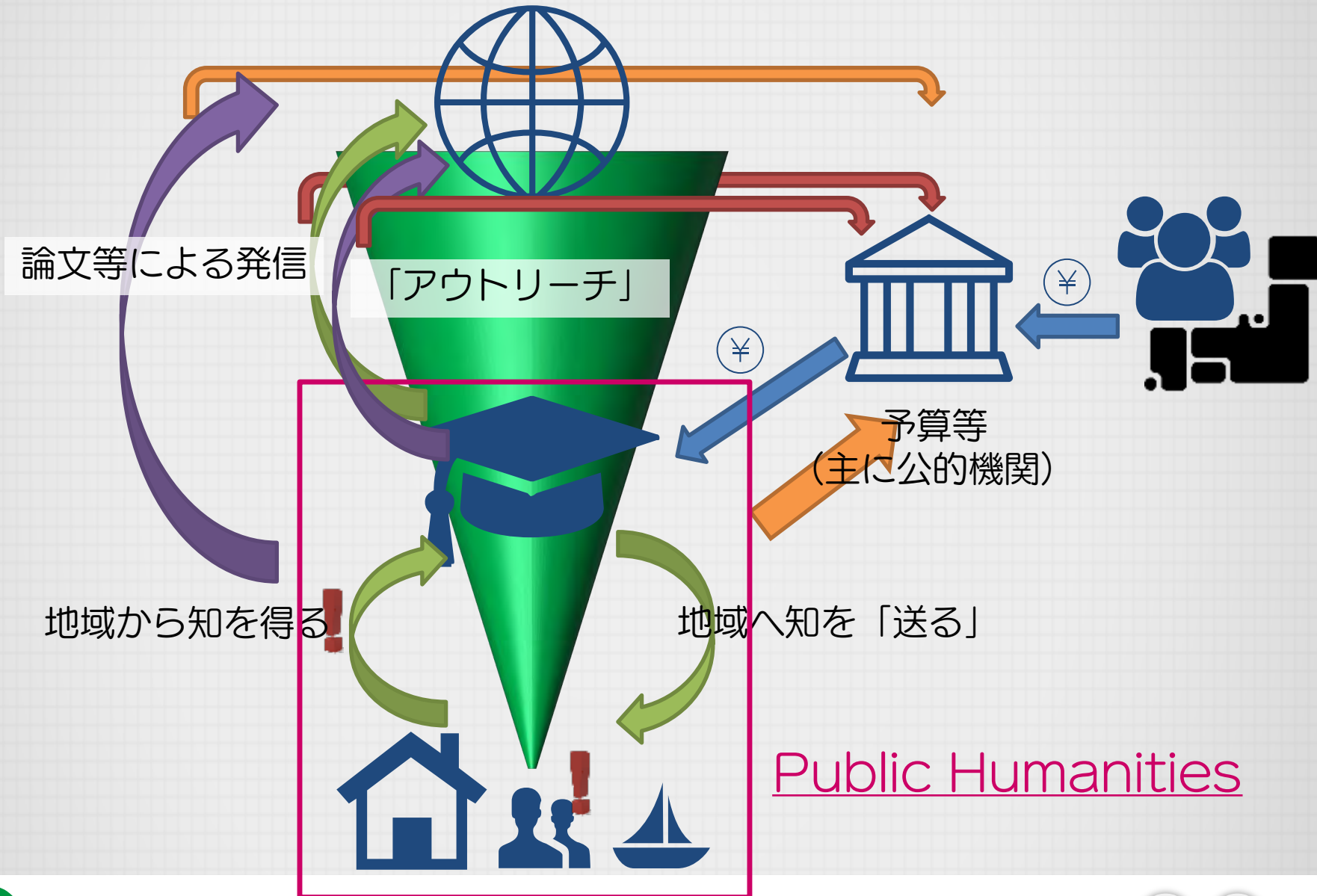


ピアレビューと評価指標の両者の妥当性を問い、説明するメタレビューを研究者と非研究者で
社会全体としてはメタレビューを基準に研究の状況を理解する



地域に根ざした人文系研究の構造（再掲）

15



Public Humanities



人文学の研究のあり方とは何か？

- 人文学の究極の目的は？
 - 社会のコンフリクト回避（人の多様性を知る。抑圧構造を学び回避する）→場合によっては人が多く死ぬ場面を回避する
 - 人類の生命の質向上（よりよく生きる）
- ※自然科学と同様に重要

これらの研究の様々な成果を広く理解してもらうための計量化と可視化が重要

目的に則した評価

- 人文社会系研究が目指すものとは何か？
- 社会への課題解決や研究を効果的に進めるための評価や指標を
- まだ、データ準備の段階ではあるが…既存の考え方によるのではなく「目的を達成するための評価」を分解して考える必要が今求められている。

